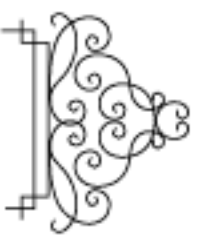




II マーチ・ワンダフル・ヴォヤージュ／一ノ瀬季生



◆Piccolo, Flute

冒頭、tr. の後の 16 分音符での連符のスラーの最初の音ははっきり発音しましょう。8 小節目の 3 拍目の 16 分休符の形は慣れるために休符に音を入れて GAB^bCD のように練習し、慣れたら G を抜いて楽譜のリズムで軽く吹けるようにしましょう。Picc. は最初を安定させる為に C の 4 拍 2 回、2 拍 4 回のベルトーンの練習をしておくのもお勧めです。Picc. の 12 小節目の EFEF が吹けない場合の替え指として、1 オクターヴ下の指でも鳴ります。その場合、初めの E でしっかり高音を狙う事がポイントです。[C] の刻みの形は ff ですが、ハーモニーを意識しながら短すぎず頑張らず吹きましょう。mf くらいでも良いと思います。4 小節目をロングトーンで練習して支えの位置を確認しておくのと吹きやすくなりますね。35 小節目の 2nd の F# の同音のタンギングはアクセント気味に少しスキマをあけて吹くとはっきりします。[E] からのタンギングは舌先で軽く、ぶどうの種を飛ばすように。8 分音符 1 つ 1 つが止まり過ぎず、あくまで 2 拍半で 1 つのフレーズに感じて吹きましょう。[F] の Fl. のオブリガートはなめらかに切れ目なく、書いてある cresc. decresc. やダイナミクスを使って表現できると、とても印象的に吹けると思います。主旋律との掛け合いを意識して吹きましょう。

◆Oboe

1、2 小節目、75、76 小節目の形はリズムに慣れるまではタイを取って吹く練習を取り入れてみてください。13 小節目 F は左手小指の替え指を使います。26 小節目からのメロディーは Snare Drum のリズムに乗りましょう。[E] からは p や mp なので周りとのバランスをしっかり聴く必要はありますが怖がらずお腹の支えをしっかり保って息を入れていきましょう。47 小節目、E から C に動く時に C の音色が気になる人はまず部分練習で dim. を無くして、E と C の音色を揃えるに当たって自分にはどれくらいの息のコントロールが必要か調べてみましょう。それが掴めたら楽譜通りに練習します。また、E から C に指を変える瞬間も正確に出来ているかどうかチェックしておきましょう。

◆Bassoon

曲全体を通して、アクセントと stacc.、アクセント・スタッカートの違いを区別して演奏するように気を付けましょう。[B] からの 8 分音符ですが、2 拍目、4 拍目は軽く演奏して、全体的に重たくならないように気を付けましょう。[C] からのメロディーはしっかりと marcato で、27 小節目からは柔らかい音色で、音色の対比が出来るように演奏しましょう。[E] からの 2 分音符はしっかりと p に落としましょう。[F] からはシンコペーションのリズムと stacc. を活かして、軽く可愛らしく演奏しましょう。

◆E^bClarinet

冒頭部分、「よっしゃ〜! tr. で始まるから思いっきり気合入れて吹くぞ〜!!」…そうしたくな

る気持ちは分かりますが、これは良くありません！私たち木管高音チームで大事なのはその後に出てくる16分音符の上行進行です。tr.のキラキラ感を大事にしつつも、16分音符が聴こえるようにしっかりと音の粒を出しましょう。そして尚且つ4拍目の処理がstacc.のように短くならないように。4小節目の8分音符をよく観察してみると、アクセント+stacc.なのか？stacc.なのか？アクセントなのか？はっきりと吹き分けましょう。[A]6小節目は下降系の音型なので、下に下がるほど聴こえにくくなります。ダウンcresc.をかけるような【イメージ】で吹くと良いでしょう。[C]の打ち込みは8分音符のstacc.と16分音符の違いを出すようにしましょう。[F]～[G]間はB^bCl.とユニゾンなので、E^bCl.らしいキラッとした音色を維持しつつ、ブレンドしましょう。[H]は瞬時にPicc. Fl.と混ざるように。70小節目は音程が高くなりがちです。左薬指でトーンホールを少しだけ押さえるなど工夫しましょう。71～72小節目は上行音型で自然と大きく聴こえてくるので音量のコントロールをしましょう。[L]は16分音符と8分音符の長さの違いをハッキリと出しましょう。(但し、後押しにならないように！)99小節目のtr.の扱いは…もう分かりますね？(笑)十分に聴こえるので楽に吹きましょう。

◆B^b Clarinet

3、4小節目付点リズムについているアーティキュレーションや休符の吹き分けを明確にしましょう。[A]アウフタクトからの旋律は6小節目あまり細かな指示がありません。どのような音の長さ、発音、処理にするのか研究し統一しましょう。8分音符を短く、付点4分音符は音を抜いて…と吹きたくなりがちですが、楽譜には13、14小節目以外はあえてstacc.やアクセントが書かれていません。あまり跳ねずに優しく流れるように吹くと、それが表現出来るかと思えます。8分音符にstacc.が付いている音と、付いていない音をはっきり吹き分けましょう。[C]からの裏打ちはffになっていますが、軽く。28小節目1拍目の8分休符が活きるよう前の音の処理に注意しましょう。[E]からは、マーチのTrioではあまり他に例を見ない「Euph.とHrn.がメロディーでCl.はオブリガート」というパターンでスタートします。静かにささやくように歌いたいところですが、音域も低くない上に3パート・ユニゾンで動かないといけないので、どうしても音量も音色も大きくなりがちです。あくまでTrioのスタートなので、やわらかく優しい音色を目指したいですね。音程、発音はもちろんバランスも大変重要になるのでしっかり周りの音を聞いて、美しい音色、音程になるようブレス・コントロールを。[F]からcresc. decresc.の指示が細かくありますので意識しましょう。[G]からの旋律は[F]よりもダイナミクスが大きくなりますが、楽に美しい音で演奏しましょう。[L]でmpになる効果が出るように前の音をコントロールしましょう。

◆E^b Alto Clarinet

[B]や[D]からの4分音符の発音やニュアンスを研究してみましょ。どのような音楽にしたいのかしっかりとイメージしてみましょ。T.Sax. Euph.とのアンサンブルも楽しんで。Trioからは雰囲気が変わりスラーも多く使われます。50、51小節目など音が跳躍するためスラーをかけるのが難しくなります。C音から上方に跳躍する場合、息の使い方を工夫するのはもちろんのこと、右手キィを押しておくなど工夫してみましょ。音量はmpですが弱々しくな

らず豊かな息で吹きましょう。[J]からは ff になっていますが乱暴にならないように。力まず息の流れを大切に演奏しましょう。

◆B^bBass Clarinet

リズムカルで楽しい雰囲気のマーチなので、全体的に発音ははっきり、元気よく演奏しましょう。13小節目アウフタクト、付点8分+16分音符は3連符の形にならないよう、付点8分音符にスピードのある息を使い、16分音符を後ろに詰めるようなつもりで演奏しましょう。[B]以降のベースラインは、跳ねるボールをイメージして、加えて裏の8分休符を感じながら演奏しましょう。25小節目F[#]で右手小指のキィを使うなら、Dは左手小指のキィを使いましょう。(F[#]が左手小指ならDは右手小指) Trio以降はpやmp、2分音符などの長い音符が出てきますが、音色がぼやけてしまわないよう、柔らかくも輪郭のある音をイメージしましょう。強弱記号やcresc. decresc. が細かく指定されています。他のパートとニュアンスを揃えるために周りをよく聴いたり、意見を交わしたりしましょう。[F]の4分音符はstacc. がついていますが、短くなりすぎないように。80小節目は16分休符がわかるように、8分音符の発音をはっきりさせましょう。[J]以降のffは音量を大きくしようとして、乱暴にならないようにしましょう。タンギングが強くなりすぎないように。

◆E^bAlto Saxophone

音程が不安定になりやすい調ですので、この調を使った音階練習を繰り返して慣れておくといいでしょう。21、37小節目の4拍目1stのE音は高くなりやすい音ですし、ハーモニー的にも、右手上2本の指のキィを塞いで音程の補正をしておいても良いかもしれませんが。他のパートと合わせて音程感をチェックしてみてください。40小節目等、音の跳躍幅が大きいのでしっかりソルフェージュして音程を狙いにいきましょう。特に高音Fの音程を注意してトレーニングしておきましょう。全体にスラーの切れ目のタンギングはしっかりと意識しましょう。多く出てくるシンコペーションのリズムのニュアンスを他パートと揃えられるとスッキリと生き生き表現出来るでしょう。83、93小節目の16分音符は転びやすいのでリズムに注意を。100小節目の3拍目E音は替え指を使いましょう。Fの運指から左手人差し指、中指の2本だけを動かします。試してみてください。

◆B^bTenor Saxophone

冒頭はfですが少し楽に演奏しましょう!また、細かいリズム、アーティキュレーションが続きます。ゆっくりから練習し、正しいアーティキュレーションで演奏しましょう。4小節目は全員が同じリズムでキメるポイントになっているので意識して合わせましょう。6小節目の2拍目8分音符は詰まらないように注意しながら吹いてください。17小節目のタイで繋がったB^bの音はブツッと切れないように次のCの音に向かう意識をして吹いてください。32小節目の2拍目からの8分音符は少しstacc. 気味に演奏してみてください。39小節目の3拍目裏からはmpになっています。大きく吹きたくなる所ですが…ここは我慢して少し控えめに吹きましょう。[F]からはCl. A.Sax. と同じ旋律です。バランスに注意しながら演奏しましょう。ま

た強弱記号も細かく表記されていますので、しっかりと表現をつけ演奏してみてください。62小節目の8分音符のスラーの切れ目はハッキリとタンギングして、繋がって聴こえないようにしましょう。[J]からはTrb.と一緒に金管楽器になったつもりで演奏してください! 2分音符をあまり張りすぎず音の処理をしながら演奏しましょう。

◆E^bBaritone Saxophone

1小節目のCの音程が低くなる時は3小節目のFの音程が高くなる事も考えLowHのキィを補正で足したまま3小節目間進行してみてください。[B]からの8小節は、例えば前半4小節、後半4小節に分けて考え、前半は2小節が2つの4小節で捉え、後半は2小節のcresc.で最後の2小節を山に持っていく4小節という、8小節のフレーズ感を持って旋律を運んでいってください。[D]も同様に。26小節目Fの音程が低く感じる時はLowC#キィを少し押しして(半分も押さない)音程の補正をしてください。Trioからの伴奏は、例えば8小節のフレーズを前半4小節で山を登って、後半4小節で下っていくようなフレーズ感を持って旋律を運んでいってください。[F]からは細かなcresc.とdecresc.の指示がありますのでそれに従ったフレーズにしてください。

◆B^bTrumpet

調性はF durですので、Trumpetにとって音程が低くなりやすい(チューニングB^bの上の)C音は明るめにとらなければなりません。冒頭のファンファーレの後にベルトーンがあり、3rdのC音と1stのC音はオクターヴ・ユニゾンなので、しっかり聞き合いましょう。12小節目4拍目、20小節目4拍目の付点8分音符についているstacc.は、「短く」という意味に縛られず、フレーズの流れを止めないように「軽く」演奏してください。[C]の打ち込みは24小節目、26小節目の8分音符で収めるように吹いています。特に26小節目は次のフレーズに繋がるように意識しましょう。[D]からの旋律はユニゾンですので、楽に演奏しますが、35小節目以降はユニゾンとハーモニーになる所が混在しているので、全体が繋がって聞こえるよう、ハーモニーになっている部分はしっかり演奏してください。Trioからの40～41小節目、48小節目はとても神経を使いますが、どちらも和音はとてもシンプルです。3rdの音は基準ですので、しっかり吹きましよう。66小節目の8分音符についているtenutoはそうでない音符との差をつけて演奏します。79～80小節目で楽譜にはないdecresc.とcresc.をしています。80小節目3拍目のアクセントをあまり強調しすぎないよう気を付けてください。[J]からはffですが気持ち的にはfで、[K]からはffで演奏します。但し、パートのバランスを考えて音量を調節しましょう。3rdのみ旋律の下でハーモニーを演奏するので3rdの方はしっかり演奏します。

◆F Horn

1、2小節目はスラーのかかり方に注意して正確なアーティキュレーションで演奏しましょう。4小節目のリズムはこの曲を通して何度か出てきますが吹き方のニュアンスをパートでしっかり統一してください。5、6小節目のベルトーンは音の立ち上がりをはっきり演奏した後

に軽く抜いて、他のパートの音が聞こえるようにしましょう。Trp. も同じ動きをしています。12小節目の4拍目から14小節目にかけてのフレーズは短いフレーズに聞こえないように一つのまとまりとして捉えてみましょう。27、28小節目のリズムはmfですが、輪郭がぼやけないようにはっきりと演奏しましょう。40小節目の4拍目からのメロディーはEuph. パートと同じです。豊かな響きのある音色で朗々と演奏しましょう。44小節目に8分休符がありますが、フレーズがそこでおさまらないように次の小節の1拍目に抑揚の頂点を持っていけるようにしてみましょう。[G]と[H]は、ハーモニーはもちろん、4小節ごとのフレーズの流れも意識してみましょう。[J]からはffになりますが、音の長さが長くなったり、音色が荒くならないように注意してみましょう。99、100小節目は冒頭と同様、スラーのかかり方に注目して正確に表現してください。全体的に裏打ちは8分休符で重くならないよう注意し、フレーズを大事にして和声感を出すようにしましょう。

◆Trombone

この曲は休みも少なく、通して演奏するには少し負担が大きいと思います。練習のし過ぎには注意し、くれぐれも無理をしないようにしましょう。全体にstacc.の指示が目立ちますが、決して短くし過ぎず、音程や響きがはっきり聞こえるよう注意しましょう。また、4小節目や80小節目、58小節目、97、98小節目など、ユニークなリズムが垣間見られます。これらの箇所はテンポがぶれたり明瞭に聴こえなかったりすると曲の面白みが半減してしまいます。ゆっくりのテンポからよく整理して練習し、舌に力が入り過ぎないように注意しましょう。[E]から[I]までの間、表打ちと裏打ちの8分音符が並びます。どちらもstacc.の指示がありますが、表打ちはマーチのテンポを先導するため少し長めに丁寧に、裏打ちは軽快さを演出するために少し短めに演奏するとメリハリがつくと思います。また、[E][F]にはcresc. decresc.が細かく指示されていますが、あまり意識し過ぎず、自然に音楽の流れを作りましょう。

◆Euphonium

4小節目の2拍目のF#の音は取りにくい進行なのでしっかりとソルフェージュして下さい。12小節目4拍目のHの音は抜けにくく音程も高くなりがちなので気を付けましょう。[B]からの4分音符はべったり吹かずにmarcatoで吹き、4小節のフレーズで頂点を17小節目の2拍目Cの音に持っていくますので、16小節目3拍目からのタイのB^bの音からCに下がる時に音量が下がらないよう注意しましょう。[C]からの音型の頂点は24小節目の頭、26小節目の頭に持っていくます。その前の音の方が高いので、そちらの方が大きくなったりしないよう気を付けましょう。[D]からの4分音符は[B]からと同じように。ただ、[B]からはスラーが出てきましたが[D]からの8分音符は[B]との対比でstacc. 気味で吹きましょう。[E]のアウトタクトの音はmpですがTrioに入ってから他の楽器の音が残っていますので少しハッキリと。大きくフレーズを取り、頂点は44小節目の4拍目に持っていくます。43小節目で膨らみ過ぎたり、44小節目のE^bからDにおりた時に音が弱くなったり短くならないよう気を付けましょう。そこでブレスを取る人も多いと思いますが、4拍目が弱くならないように。58小節目や80小節目のリズムは取りにくいので、2拍目の休符を吹いてみたりしながら練習しま

しょう。[G]からは4小節フレーズで、頂点は61小節目頭に。始まりの音や4拍目でFに上がりますが膨らみ過ぎないように。63小節目からのフレーズも65小節目の2拍目に持っていきましょう。[H]からの4分音符も *marcato* で。[J]からの音型は毎年出てきますが付点音符がベターとならないようしっかりと弾んでください。重心は付点8分音符に置き、その後の16分音符や2分音符を自然に抜きましょう。最後に低いFの音での *stacc.* が何度か出てきますが、音の出だしより後の方が膨らむ事のないよう気を付けましょう。

◆Tuba

[A]からの伴奏は旋律も *mf* なのに加えて、オブリガートがありません。音量のバランスを考えて大きくなりすぎないようにしましょう。[B][G]も *mf* ですが、こちらはオブリガートが入っていますので[A]ほどシビアになりすぎず、一定にテンポを刻みましょう。[A]のような伴奏音形は1つ1つの音程が聴きとれるように響かし、クリアな発音になるようにしましょう。その際そうするあまり、タンギングがきつくなりすぎないように注意しましょう。[C]からの旋律はタイの音に向かって進みます。[付点8分音符+16分音符]のリズムは[タン・タター]となるようにし、[ター・タター]と付点がベタベタにならないように気を付けましょう。[E]～[F]の部分はHrn.、Euph.に旋律がありますので、真っ直ぐベターと吹き伸ばしてしまうと旋律が聴こえづらくなる可能性があります。音符はクリアに変わり、軽く響かせるようにして旋律とのバランスを考えながら演奏してみてください。4拍子のマーチですので、基本的に[強拍+弱拍+中強拍+弱拍]となります。ビートの軸は1、3拍に、2、4拍は弱拍ですが、1、3拍に向かって進ませる拍だと思ってください。全ての音を単純に並べて1拍子のマーチにならないように工夫しましょう。それと合わせて、小節ごとに変わるハーモニーも意識して演奏するとより合奏の一体感が作れると思います。

◆String Bass

冒頭のボーイングはダウン・ダウン・アップで弾くのをおすすめします。楽譜には書かれていませんが、マーチなので「強・弱・強(中)・弱」のルールを守って演奏しましょう。[C]は16分音符がクリアに聴こえるよう、まずはリズムを分けて16分音符とその次の4分音符の2音だけで練習してから楽譜通りの付点のリズムで練習してください。[E]はベタ弾きにすると音楽の流れが停滞してしまうので、拍感がわかるように1拍目と3拍目の頭を少しはっきり示してあげると他のパートが演奏しやすくなります。79小節目からのリズムは乗り遅れ禁物です。音の処理を短めにして次の音の準備を心がけてください。[J]からは *ff* 指示ですが硬い音にならないように[A]と同じ音質で音量だけ大きくするイメージで演奏しましょう。

◆Percussion 1 (Snare Drum)

16分音符の細かいリズムとロールの組み合わせが出てきますが、そういった場所ではロールの手数を決めることでリズムが安定します。4小節目のリズムは、その後何度も登場するキメのリズムです。手順は奏者が一番やりやすいもので、休符が伸びないように注意しましょう。(参考演奏では、手順をRLLLRとし、アクセントが右手にくるように演奏しています) Trioの

sfz と mp の切り替えは、1 拍目をしっかり叩き切るのがポイントです。[E] からの強弱は、全体から浮いてしまわないようバランスをとりましょう。57 小節目のアウトタクトは重くならないように。最後のアクセントは、やり過ぎてしまうとまとまりがなくなってしまうので注意しましょう。

◆Percussion 2 (Bass Drum)

マレットはあまりヘッドが大き過ぎないものがおすすめです。ちなみに今回は Playwood の BD-30 を使用しました。最初から元気よくいきたいところですが、ff ではなく f なので軽やかに演奏しましょう。アクセントとそうでない音の差をつける時は、アクセントを強くするというよりも、アクセント以外の音を目立たせないように演奏すると良いでしょう。75 小節目から、最初と同じようなフレーズが出てくるので同様に、あくまでも f なのを忘れてはいけません。さらに 80 小節目 4 拍目から ff が待っているのです、それを際立たせるためにも、75 小節目からの 6 小節目間は冷静に演奏しましょう。

◆Percussion 3 (Crash Cymbals, Suspended Cymbal)

Crash Cymbals には様々なリズムが使われています。まずは安定した持ち方を研究し、楽器を自由自在に扱えるようになることが出来れば、より表現力の幅が広がります。全曲を通して、アクセントの付いている音符が全て強いわけではありません。必要に応じて強弱差をつける、或いはアクセントを付けないという判断もあります。合奏の流れ、フレージングをしっかりと掴み、音量を作りましょう。基本的にマーチに関しては、Crash Cymbals は楽譜に書かれている強弱よりも一段弱く演奏すると良いでしょう。楽器の特性上、また多くのホールの音響上、合奏を上回る音量が出てしまいます。楽譜の強弱通りに演奏出来るのは [L] から終曲までのみと言えます。[D] 以降、4 分音符で刻むことがほとんどですが、1 拍目 (強拍)、3 拍目 (中強拍) を意識し、マーチの浮遊感を表現しましょう。

◆Percussion 4 (Xylophone, Glockenspiel)

冒頭や 75 小節目の Xylophone は、華やかなイメージを持って演奏しましょう。26 小節目からの Xylophone は、あくまでメロディーではないので出しすぎないようにしましょう。41 小節目の Glocken. は、可愛らしく stacc.。49 小節目からは歌うような感じで。しかし、やはりメロディーではないので音量に注意が必要です。この曲は、演奏箇所によってメロディーか、オブリガートかを理解する必要があります。